

福島経済マンスリー

10月の県内経済は、先行きに不透明感が窺えるものの、緩やかに持ち直している。

1. 2022年10月の県内経済

項目	今月の動向	景況判断	
		変化方向	水準
県内経済の景況	県内経済は、円安や物価上昇による影響から、業種間で明暗が分かれるなど先行きに不透明感があるものの、新車販売が2カ月連続で前年を上回るなど消費動向の一部や、公共投資、設備投資などに持ち直しの動きがみられる。		
消費動向	乗用車販売台数は半導体不足がやや改善し、新車販売が2カ月連続で前年を上回った。但し、前々年の2020年を下回っており、依然として先行きは不透明である。大型小売店およびドラッグストア、コンビニエンスストアの販売額はいずれも前年比で増加した。一方、消費者物価指数は「食料」などを中心に総合指数が上昇しており、物価上昇が引き続き消費動向に対する懸念材料となっている。		
公共投資	公共投資は、除染土壌の仮置き場の原状復帰や研究施設の建設、福島駅東口のビル解体などに関わる工事が発注されたことから、請負金額が前年比+37.5%、保証金額が同+1.5%といずれも前年を上回った。一方、件数が同△8.5%と前年を下回った。		
設備投資	民間非居住用建築着工は、前年比で棟数が+11.4%、床面積が+17.1%と増加したことに加え、工事費予定額が電気・ガス・熱供給・水道業などで増加したことから、前年を222.1%上回った。		
住宅投資	新設住宅着工戸数は前年比△15.2%と2カ月ぶりに前年を下回った。利用関係別にみると、分譲が同+31.7%と前年を上回ったものの、持家が同△12.9%、貸家が同△36.6%といずれも前年を下回った。		
生産活動	鉱工業生産指数は、季節調整済指数が95.7で前月比+2.9%、原指数が97.7で前年比+5.6%となった。業種別の季節調整済指数を前月比で見ると、「輸送機械工業」など8業種で上昇し、「電子部品・デバイス工業」など11業種で下降した。		
雇用動向	有効求人倍率は季節調整済値が1.47倍と前月比で△0.03ポイント、新規求人倍率は季節調整済値が2.15倍と前月比で△0.10ポイントと前月値を下回った。一方、雇用保険受給者実人員は前年比で△3.8%となった。		

注1：「変化方向」は前月と比較した現在における景況の変化方向（：改善、：不変、：悪化）を示し、当月と前月における3カ月加重移動平均の前年同期比を比較して判断。

注2：「水準」は現在における景況の水準を示し、当月の3カ月加重移動平均値と過去5年間の平均値を比較して判断しており、「変化方向」が改善または悪化の場合に、「水準」が必ず変化するわけではない。

なお、公共投資および設備投資は6カ月加重移動平均値による判断。

注3：「景況判断」は、注1および注2の通り、中長期的な指標を基に判断しているため、「今月の動向」と異なる場合がある。

注4：鉱工業生産指数は9月データ。

〈天気図（水準）の意味〉

晴れ	晴れ一部曇り	曇り	曇り一部雨	雨



2. 県内経済動向の概要

(1) 前年同月比

(単位：%、ポイント)

	項 目	前 年 同 月 比					
		2022年5月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	△ 0.7	△ 0.5	1.4	△ 1.1	△ 1.4	1.1
	コンビニエンスストア販売額（全店舗）	2.0	1.9	3.1	4.2	0.6	4.8
	ドラッグストア販売額（全店舗）	2.6	0.8	4.3	4.7	4.3	5.5
	乗用車販売台数	△ 5.7	△ 5.9	△ 7.5	△ 5.3	3.0	0.8
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	△ 28.8	△ 12.4	△ 0.4	24.5	35.6	37.5
設備投資	建築着工工事費予定額（民間非居住用）	15.0	39.1	239.6	16.6	48.9	222.1
住宅投資	新設住宅着工戸数	△ 16.9	△ 18.0	7.9	△ 27.2	6.4	△ 15.2
生産活動	鉱工業生産指数（総合）	△ 1.0	△ 1.6	△ 0.4	3.8	5.6	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）	0.13	0.11	0.09	0.19	0.17	0.16
	雇用保険受給者実人員	△ 1.7	△ 5.2	△ 4.1	0.5	△ 1.8	△ 3.8

注1 鉱工業生産指数は原指数、有効求人倍率は原数値。Pは速報値、rは訂正值。

(2) 前月比

(単位：%、ポイント)

	項 目	前 月 比					
		2022年5月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	4.9	△ 4.0	5.6	0.1	△ 8.7	5.8
	コンビニエンスストア販売額（全店舗）	3.0	△ 0.7	8.8	△ 1.0	△ 6.8	2.2
	ドラッグストア販売額（全店舗）	0.08	3.4	3.8	5.2	△ 6.9	△ 3.0
	乗用車販売台数	△ 6.8	11.1	△ 2.4	△ 10.1	19.2	△ 4.6
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	△ 46.5	29.1	△ 9.6	1.9	27.4	△ 18.4
設備投資	建築着工工事費予定額（民間非居住用）	△ 51.2	76.4	2.2	△ 37.4	43.3	131.4
住宅投資	新設住宅着工戸数	△ 29.5	28.0	18.6	△ 23.1	15.2	△ 5.5
生産活動	鉱工業生産指数（総合）	△ 2.7	4.0	1.3	3.1	2.9	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）	0.02	△ 0.01	0.01	0.09	0.01	△ 0.03
	雇用保険受給者実人員	3.4	14.0	0.2	7.9	△ 8.0	△ 7.4

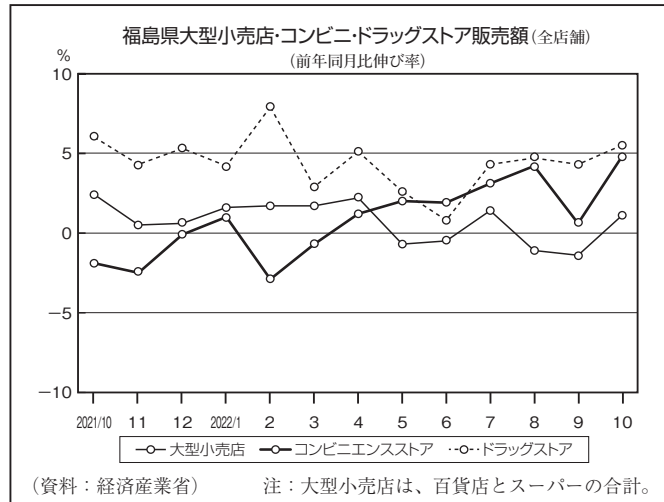
注2 鉱工業生産指数は季節調整済指数、有効求人倍率は季節調整値。Pは速報値、rは訂正值。

3. 県内経済動向

消費動向

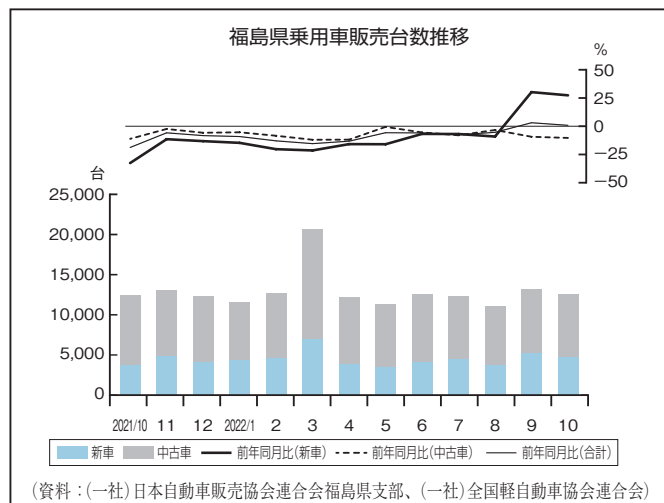
大型小売店およびドラッグストア、コンビニが前年比増

10月の県内大型小売店の販売額は229億56百万円（前年同月比+1.1%）と3カ月ぶりに前年を上回った。また、ドラッグストア販売額は95億25百万円（同+5.5%）と18カ月連続、コンビニエンスストア（コンビニ）販売額は175億69百万円（同+4.8%）と7カ月連続でそれぞれ前年を上回った。なお、大型小売店、ドラッグストア、コンビニの販売額合計は500億50百万円（同+3.2%）と前年を上回った。



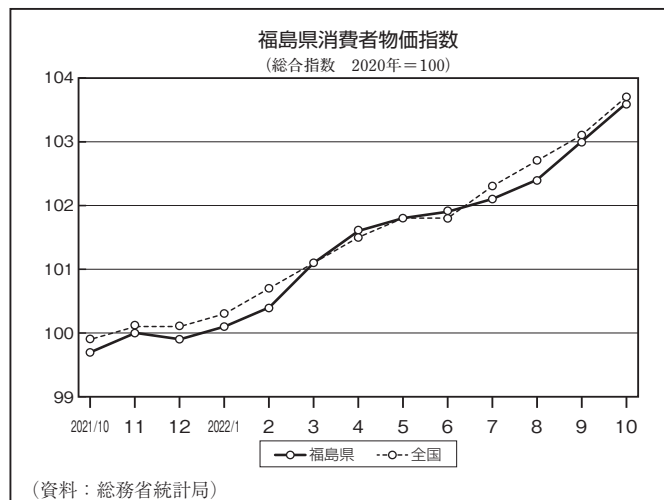
乗用車販売：2カ月連続で前年比増

10月の乗用車販売台数をみると、新車が4,676台（前年同月比+26.9%）、中古車が7,849台（同△10.2%）、合計が12,525台（同+0.8%）となり、新車が2カ月連続で前年を上回ったことから、合計でも前年を上回った。但し、世界的な半導体不足は最悪期を脱したものの、依然として楽観できる状況ではなく、10月の新車販売台数も2020年と比較すると△13.8%となっている。



消費者物価指数：前月比、前年比とも上昇

10月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、2020年=100）が103.6で前月比+0.7%、前年同月比+4.0%。費目別に前月比で見ると、「食料」の107.2（前月比+2.3%）など6費目で上昇、「教養娯楽」の103.4（同△1.1%）など2費目で下降した。

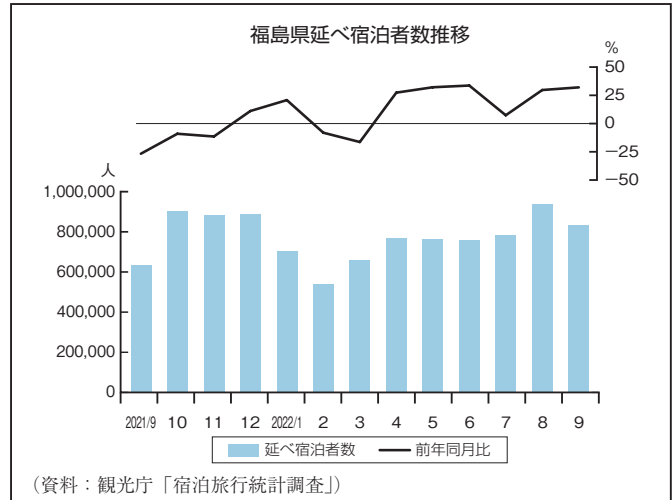


観光

※延べ宿泊者数は9月データ

延べ宿泊者数：6カ月連続で前年比増

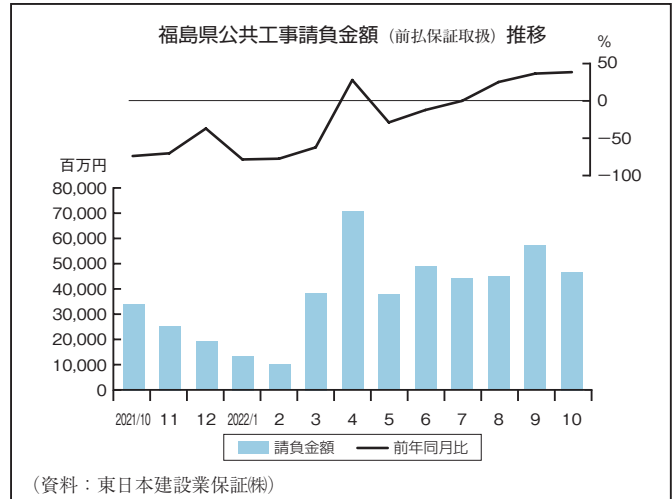
9月の延べ宿泊者数は、833,170人（前年同月比+31.5%）と、宿泊割引事業「福島県 県民割プラス」が継続していることなどから、6カ月連続で前年を上回った。



公共投資

公共工事：請負金額は3カ月連続で前年比増

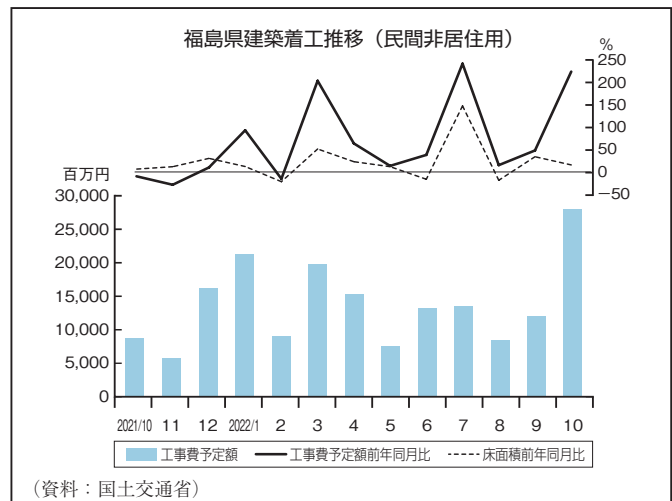
10月の公共工事前払保証取扱は、除染土壌の仮置き場の原状復帰や研究施設の建設、福島駅東口のビル解体などに関わる工事が発注されたことから、請負金額が471億11百万円（前年同月比+37.5%）、保証金額が173億85百万円（同+1.5%）といずれも前年を上回った。一方、件数が723件（同△8.5%）と前年を下回った。



設備投資

設備投資：工事費予定額が8カ月連続で前年比増

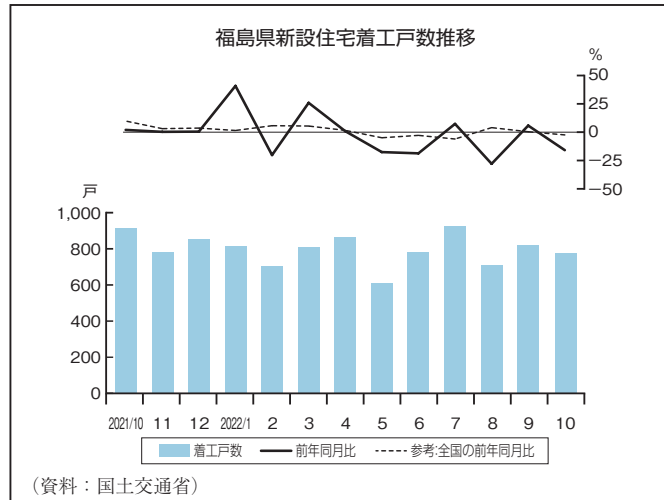
10月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が166棟（前年同月比+11.4%）、工事費予定額が279億78百万円（同+222.1%）、床面積が57,828㎡（同+17.1%）といずれも前年を上回った。業種別では、電気・ガス・熱供給・水道業などの工事費予定額が前年比で増加した。



住宅投資

住宅建設：2カ月ぶりに前年比減

10月の県内新設住宅着工戸数は775戸（前年同月比△15.2%）と2カ月ぶりに前年を下回った。主な利用関係別にみると、「分譲」が158戸（同+31.7%）と前年を上回ったものの、「持家」が420戸（同△12.9%）、「貸家」が192戸（同△36.6%）といずれも前年を下回った。

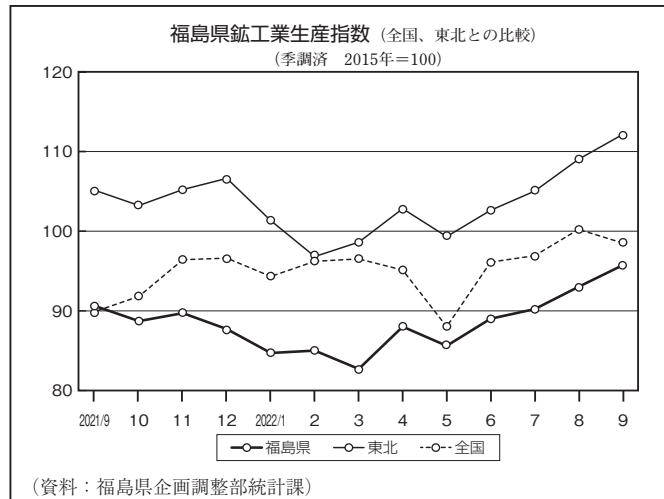


生産活動

※鉱工業生産指数は9月データ

鉱工業生産指数：前月比、前年比とも上昇

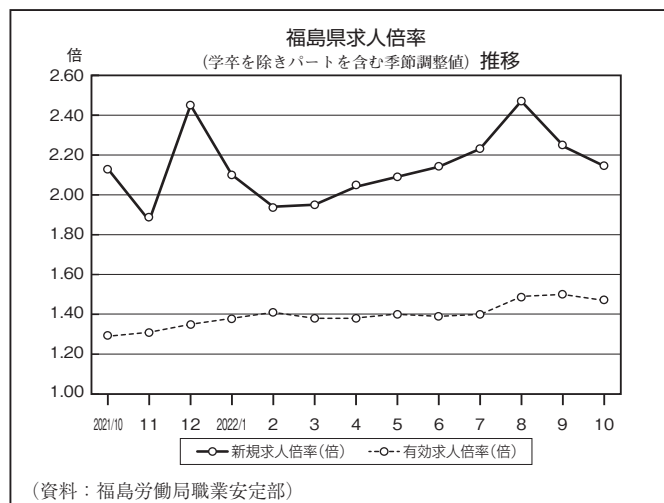
9月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数が95.7（前月比+2.9%）、原指数が97.7（前年同月比+5.6%）となった。業種別の季節調整済指数をみると、「輸送機械工業」（前月比+30.6%）など8業種で上昇し、「電子部品・デバイス工業」（同△8.8%）など11業種で下降した。



雇用動向

雇用動向：有効求人倍率は前月比下降、前年比上昇

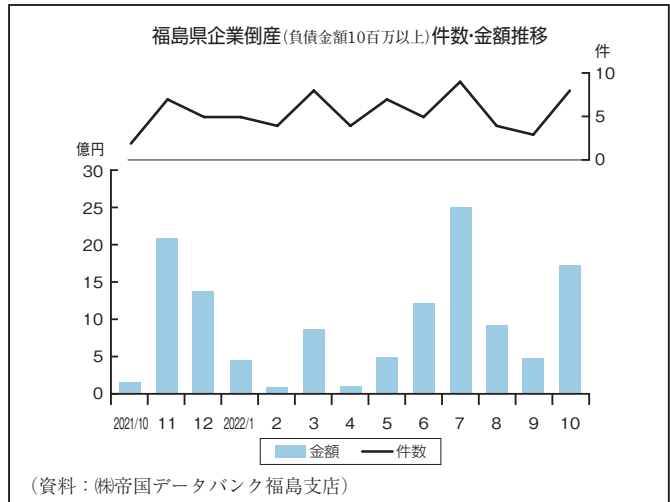
10月の新規求人倍率は、季節調整値が2.15倍（前月比△0.10ポイント）、原数値が2.27倍（前年同月比+0.09ポイント）となり、有効求人倍率は、季節調整値が1.47倍（前月比△0.03ポイント）、原数値が1.49倍（前年同月比+0.16ポイント）となった。また、10月の雇用保険受給者実人員は6,236人（前年同月比△3.8%）と前年を下回った。



企業倒産

企業倒産：件数、負債総額とも前年比増

10月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、件数が8件（前年同月比+300.0%）、負債総額が17億20百万円（同+995.5%）。業種別でみると、製造業が6件、運輸・通信業、小売業が各1件となった。

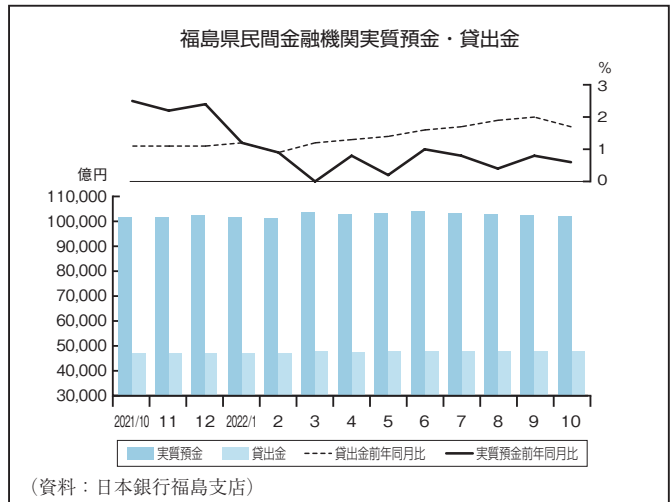


金融動向

資金需給：預金、貸出金とも前年比増

県内金融機関（全国銀行の県内店舗分、県内8信用金庫の全店舗分）の10月末の実質預金残高は、10兆2,545億円（前年同月比+0.6%）と3年5カ月連続で前年比増加。また、貸出金残高は、4兆7,800億円（同+1.7%）と9年5カ月連続で前年比増加。

※実質預金は、総預金から未決済の他店払い手形・小切手類の合計金額を控除したものの。



保証協会：保証承諾は件数、金額とも前年比増

10月の保証承諾は、件数が621件（前年同月比+19.9%）、保証金額が87億70百万円（同+39.3%）。10月末日現在の保証債務残高は、件数43,683件（同+2.9%）、金額5,631億円（同△0.4%）。一方、10月中の代位弁済は、件数が26件（同+8.3%）、金額が4億80百万円（同+298.4%）。

